

1. 科目名 (単位数)	社会調査法 (2単位)	3. 科目番号	SBMP2107						
2. 授業担当教員	若狭 清紀		SSMP2107						
4. 授業形態	講義、小テスト、ディスカッション、仮説作成、質問項目と選択肢作成、面接調査、レジュメ作成と発表	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>社会調査の目的は、社会事象について現地調査を行い（積極的に数値を利用して正しく測定する）、データを入力し、調査結果から一般的な規則性を見出し、必要に応じて取るべき行動を定めようとする事である。現在、社会福祉など専門分野では、人々のニーズの把握や解決策を量的調査や質的調査に基づいて提案するなど科学的エビデンスが求められている。本講義を受講することにより、社会調査の重要性と、世の中に氾濫する社会調査の真実や問題点を把握することが可能となる。</p> <p>本講義では、次のことを学習する。第1に、社会福祉領域における社会調査の意義と目的、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護、社会調査の基本である質的調査法と量的調査法について学ぶ。第2に、社会調査を実施するに当たり守らなければならない個人情報の保護、得られたデータから個人情報の扱いについて理解を深める。第3に、人々のニーズや問題を発見し、それらの原因や解決策を探るために仮説を設定し、それに基づき質問項目を作成する。現地調査（面接調査）の実施によるデータの収集。量的調査と質的調査の調査の方法を学習する。その際には、社会調査が個人のプライバシーに関わるものであることを念頭におき、個人情報の保護、人権に配慮する。第4に、量的調査や質的調査のデータに基づき、現状と関連要因を分析し、発表レジュメを作成し、発表するなど、エビデンスに基づいた社会調査の必要性を理解する。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会調査とは何か、社会調査が必要な理由(社会調査の意義と目的)について理解を深める。</li> <li>2. 社会調査の種類、すなわち事例調査と量的調査の意義について理解し、それぞれ長所と短所を理解する。</li> <li>3. 社会調査における倫理や個人情報保護が必要な理由を把握する。</li> <li>4. 量的調査と質的調査の母集団の標本抽出法、回収率が重要である理由について学習する。</li> <li>5. グループごとに仮説を設定し、質問項目を作成し、現地調査を実施するなど調査の方法を身に付ける。</li> <li>6. 分析方法（仮説の検証を含む）、分析結果に基づきレジュメの作成、発表、議論の仕方などを実践する。</li> <li>7. 社会福祉士国家試験受験に必要な基礎知識について説明できるようになる（受験予定学生の場合）。</li> </ol>								
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>毎回の授業の学習の記録を、指定する書式で提出してもらう。</p> <p>冬休み前に、面接調査をもとにしたレポートを提出してもらう。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 潮谷有二ほか、『社会調査の基礎』ミネルヴァ書房。 *授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会調査とは何か、社会調査が必要な理由(社会調査の意義と目的)について理解を深めることができたか。</li> <li>2. 社会調査の種類、すなわち事例調査と量的調査の意義について理解し、それぞれ長所と短所を理解することができたか。</li> <li>3. 社会調査における倫理や個人情報保護が必要な理由を把握することができたか。</li> <li>4. 量的調査と質的調査の母集団の標本抽出法、回収率が重要である理由について学習することができたか。</li> <li>5. グループごとに仮説を設定し、質問項目を作成し、現地調査を実施するなど調査の方法を身に付けることができたか。</li> <li>6. 分析方法（仮説の検証を含む）、分析結果に基づきレジュメの作成、発表、議論の仕方などを実践することができたか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <table> <tr> <td>小テストの評価基準</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>授業の態度や内容の把握など</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート・課題提出と発表</td> <td>30%</td> </tr> </table>			小テストの評価基準	40%	授業の態度や内容の把握など	30%	レポート・課題提出と発表	30%
小テストの評価基準	40%								
授業の態度や内容の把握など	30%								
レポート・課題提出と発表	30%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>基礎的な社会調査能力を習得することを目標として欲しい。</p> <p>情報処理学習室のパソコンを使うので、ログインできるようにしておくこと。</p>								
13. オフィスアワー	別途通知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション	事前学習	シラバスに目を通しておくこと。						
		事後学習	学習記録への記入						

第2回	社会調査の意義と目的、統計法の概要	事前学習	教科書序章 1・2・3 (pp.2~13)・5 (pp.17~21) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第3回	社会調査における倫理と個人情報保護	事前学習	教科書序章 4 (pp.13~16) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第4回	社会調査の種類	事前学習	教科書第1章 2(pp.27~33)、第4章 1・2(pp.84~91の24行目) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第5回	量的調査の方法	事前学習	教科書第2章 2・3 (pp.40~54) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第6回	仮説の設定と調査計画	事前学習	教科書第1章 1(pp.24~27)、第3章 2・3(pp.63~72)、第4章 2「方法の選択基準」(pp.91~92) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第7回	調査票の作成	事前学習	教科書第3章 4 (pp.72~79) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第8回	調査票の配布と回収、データ入力	事前学習	教科書第4章 3「回収率を高めるための工夫」(pp.95~96)、第5章 1 (pp.112~118) を読み、分からない言葉について調べておく。 Microsoft Excel による作表の方法について確認しておく。
		事後学習	学習記録への記入
第9回	量的調査の集計と分析(1) データの区分、度数分布と記述統計	事前学習	教科書第5章 2・3・4 (pp.119~128) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第10回	量的調査の集計と分析(2) 記述統計量とクロス集計	事前学習	教科書第5章 5・6 (pp.128~135の21行目) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第11回	量的調査の集計と分析(3) 散布図、相関係数と回帰分析、重回帰分析 問題演習	事前学習	教科書第5章 6「散布図」(pp.135~136)、第5章 6「関連性を示す統計量」(2) 量的変数 (pp.139~140) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入 問題演習の復習

第12回	質的調査の種類と方法	事前学習	教科書第4章4 (pp.96~105) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入
第13回	質的調査の分析方法 問題演習	事前学習	教科書第6章 (pp.150~167) を読み、分からない言葉について調べておく。
		事後学習	学習記録への記入 問題演習の復習
第14回	グループワークによるデータ分析、発表レジュメ作成	事前学習	自分が作成したレポートの内容を確認しておく。
		事後学習	学習記録への記入
第15回	グループ発表、まとめ	事前学習	授業内の問題演習に即して知識を確認する。
		事後学習	グループ発表の内容を振り返る。 授業全体の重要事項について確認する。